



## 研修医日記

作成者：山一 真彦（2年次）

皆さん、こんにちは。とうとう研修医最後の日記になってしまいました。  
思い返せばあっという間の2年間の研修でした。2年前に比べればできる様になったことは多くなったはずですが、2年前と同様かそれ以上の不安が今また襲ってきています。

さて、この時期、子供から大人まで世代を問わず出会いと別れの季節です。  
出会いと別れは時代の新旧も問わないようで、唐の詩人・于武陵はこんな漢詩を残しています。

## 勸酒（かんしゅ）

勸君金屈卮（きみにすすむきんくつし）

満酌不須辞（まんしゃくじするをもちいず）

花堯多風雨（はなひらけばふううおおし）

人生足別離（じんせいべつりたる）

難しすぎてよくわかりませんが、この漢詩を現代風に訳したのが井伏鱒二です。

コノサカズキヲ受ケテクレ

ドウソナミナミツガシテオクレ

ハナニアラシノタトヘモアルソ

「サヨナラ」ダケガ人生ダ

色々な解釈があるようですが、さよならだけが人生だ、って… そんな悲しいこと…  
この詩に対して寺山修司はこんな詩を残しています。

さよならだけが人生ならば また来る春は何だろう

はるかなはるかな地の果てに 咲いている野の百合何だろう

さよならだけが人生ならば めぐり会う日は何だろう

やさしいやさしい夕焼と ふたりの愛は何だろう

さよならだけが人生ならば 建てた我が家何だろう

さみしいさみしい平原に ともし灯りは何だろう

さよならだけが人生ならば 人生なんか いりません。

唐の時代でも現代でも出会いと別れは人生の大きなテーマということでしょうか。  
ラーメンを食べながらそんなことを考えたりしています。

そういえばこんな名言も… ラーメンはお別れの合図ばいっ!!

病院関係者の方々、下北の方々、その他大勢の方々、2年間大変お世話になりました。

ありがとうございます。

ではでは、さようなら、また会う日まで。

※日記の作成日と当ページへの掲載日は異なる場合があります。